

2024年6月26日

厚生労働大臣 武見 敬三 様

中間年薬価改定廃止を求める要請

立憲民主党 厚生労働部門

立憲民主党は昨年5月、貴省に対して、中間年薬価改定の見直しをはじめとする医薬品の安定供給実現のための方策を提言しました。しかし、いまだに中間年薬価改定は改められていません。

中間年改定は医薬品産業の賃金競争力を低下させ、業務負担を増加させるといった悪影響を及ぼしています。その結果、離職者が増加するといった事態を招き、医薬品産業の基盤が大きく揺らいでいます。

薬価は中間年も含めて下落が続き、今年度の改定でも0.97%のマイナスです。中間年の改定は価格の下落スピードを加速させると指摘されています。このままでは医薬品産業全体の体力が低下し、医薬品の供給がさらに不安定になり、イノベーション創出力が失われてしまいます。ドラッグラグ・ロスやコロナ禍で顕在化した我が国の治療薬・ワクチンの研究開発の遅れという問題も解決できません。

よって、以下の事項を速やかに実施するよう強く要請します。

要請事項

医薬品の安定供給、イノベーション創出の基盤を強固にして、国民に品質の高い医薬品を安定して供給できるようにするため、中間年薬価改定を廃止し、2年に1度の改定とすること。

以上